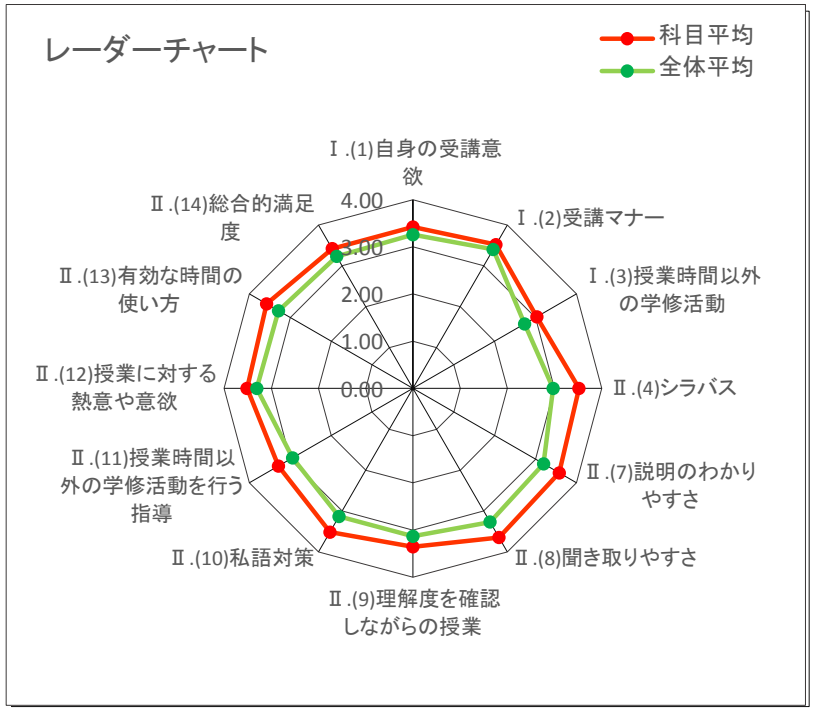
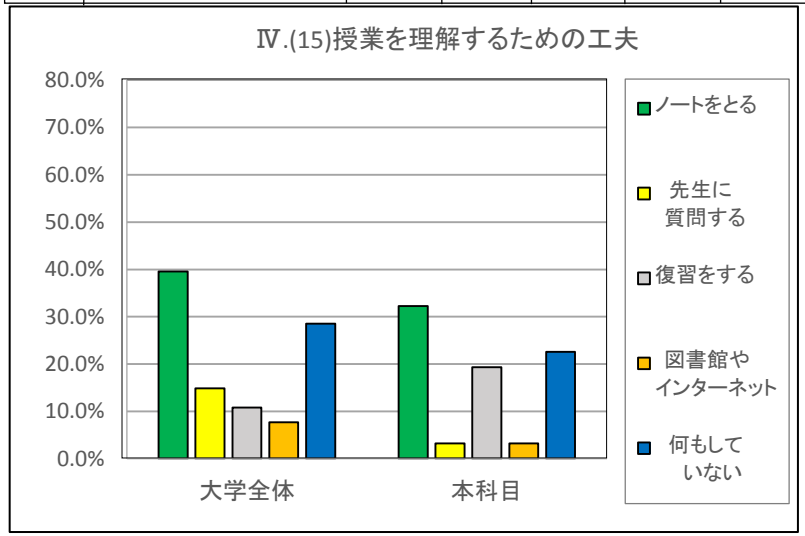
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.42	3.26
	Ⅰ.(2)	3.52	3.40
	Ⅰ.(3)	3.03	2.73
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.52	2.97
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.58	3.20
	Ⅱ.(8)	3.65	3.27
	Ⅱ.(9)	3.35	3.13
	Ⅱ.(10)	3.52	3.13
	Ⅱ.(11)	3.29	2.94
	Ⅱ.(12)	3.52	3.31
	Ⅱ.(13)	3.58	3.29
満足度	Ⅱ.(14)	3.42	3.23

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2,（あまりそう思わない）、1（そう思わない）

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(15)	授業を理解するための工夫	32.3%	3.2%	19.4%	3.2%	22.6%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.32	3.13
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(13)	3.50	3.15
総合的満足度 Ⅲ.(14)	3.42	3.23

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2014年度　前期
時間割番号	21301
科目名	日本の歴史
教員名	

①授業計画の達成度について

大学平均と比較すると設問4に現れている、シラバスと授業の達成度については回答平均値で見て0.55高い。4点満点で0.55であるから相当に大きな差があると言える。昨年までは平均を超えるとは言え、それほど大きな差がなかったことを考えれば、これは本講義の点数が飛躍的に上がったと言うよりは、大学全体の達成度が下がったのではないかという疑問が生まれるが、とりあえず本講義としては悪い結果ではないと考えておく。
細かい集計がなされていないので、生のデータからシラバスと授業計画の達成度を確認すると、シラバスについての否定的な意見が5%弱であることがわかる。残念ながらこれまでのようにシラバスを読んだかどうかを問う設問がないので、読んだ上で役に立っていないと考えているのか、読んでいないのかを判別することができない。ただ否定的な回答を寄せたシートにおいては受講意識が低く、授業時間以外の勉強をしていないという傾向が見られた。
シラバスを熟読することと、授業時間以外の予復習に関してはそれなりに指導したつもりであるが、講義科目の限界かもしれない。
難易度に関しては設問5に見られるように難易度が高いと感じている学生が多いことがわかる。その一方で難易度が低いと感じている学生も一定程度いるので、毎年のことながら悩ましいところである。本年度はテキストを利用し、予復習が容易となったので、昨年度よりもその幅は縮まっているように思われる。

②授業の進め方について

授業のわかりやすさについて、設問7, 8に現れる物理的な要素は例年通りの評価を得た。設問9の理解度の確認については以前は非常に低い評価を得たこともあったので、気をつけた結果、改善が見られる。生のデータで見ると非常に低い評価をつけた学生が数名いたために平均が下がっていることがわかる。おそらく彼らは自分が理解していないうちに授業が進んでいると感じているのであろう。より目配りをする必要を感じた。ただ問いかけても反応がない学生がいるので、彼らとコミュニケーションをとる工夫が必要だろう。
私語対策も比較的高い評価である。座席指定が奏功していると思われる。
このようにそれぞれの平均値はそれなりによい点数であるが、全体の満足度については、大学の平均値よりは高いとはいえ、十分とは言えない。内容が少し一般的すぎて、知的好奇心を十分に刺激できなかったのではないかと反省している。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

授業の進め方の最後にも書いたように、平均的には高い評価を得ているにも関わらず、満足度の平均が3.42であり、抜群に高いとは言えない。そこで生のデータに立ち返ると、4年生に「全くそう思わない」という学生がいる。1年生向けの授業であるため4年生にはつまらなかったのかもしれないが、それでも内容が充実していればもう少し別の評価があったはずである。母数がそれほど大きくないので一人の学生の評価が平均を動かすという面はあるにしても、やはり大学の授業としてもう少しとんがった、学生の常識を刺激するような内容を組み込んで、4年生の学生にも満足してもらえるような授業にしていきたい。

奈良学園大学